

令和7年度 県立神戸鈴蘭台高等学校 学校評価（目標と評価方法）

1 学校経営のテーマ

【教育方針】

本校は、鈴蘭台高校の校訓である「優雅」と鈴蘭台西高校の校訓である「創造」に、新たに「共生」を加えて校訓とし、これらの校訓のもと、自主自律の精神に富んだ人づくりをめざしている。

国際コミュニケーションコースを有する本校は、グローバル化の進む社会において、国際的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会の実現をめざしつつ、国際社会で活躍できる人づくり、変化の激しい社会においても、幅広く活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざしている。

令和7年度から文理探究科の開設、「総合的な探究の時間」を通じて、大学や企業、自治体と連携し、課題発見・課題解決を実践しながら、探究活動の充実を図る。

上記の教育方針を実現するために、次の4点の教育目標を定める。

- (1) “夢”や希望を叶え、『在りたい未来』を実現するために必要な「確かな学力」を育成し、自らの考えを他者との確に共有できる人材を育成する。
- (2) 自他の生命・尊厳及び自然環境を尊重する精神を持ち、持続可能な社会の実現に貢献しようとする人材を育成する。
- (3) 伝統文化を尊重しつつ、多文化共生社会の実現に必要とされる国際的な視野とコミュニケーション能力を持ち、国際社会で活躍することができる人材を育成する。
- (4) 自律的に課題を発見し、その課題解決に向けて主体的に探究することができる人材を育成する。

2 本年度の重点目標

第4期「ひょうご教育創造プラン」及び4点の教育目標を踏まえ、次の5項目を重点目標とする。

- (1) 『絆』を深め、“夢”や希望を叶え、『在りたい未来』を実現するために必要な「確かな学力」を育成し、探究的な学びを充実させることによる、自らの考えを他者との確に共有できる人材の育成
 - ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、キャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。
 - イ 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。
 - ウ 将来の進路目標を実現し、他者の意見や考えを尊重し、他者と協働して社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識・技能に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力・主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力の充実を図る。
- (2) 自他の生命・尊厳及び自然環境を尊重する精神を持ち、社会の実現に貢献しようとする人材の育成
 - ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性を育成する。
 - イ 校内や地域の美化に励む伝統を継承し、恵まれた自然環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。
 - ウ 生命の尊さや、他者を思いやる心を育て、人権意識を高め、防災・安全教育を充実させる。
- (3) 伝統文化を尊重しつつ、多文化共生社会の実現に向けて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った国際社会で活躍する人材の育成
 - ア 伝統文化を尊重しつつ、国際理解教育を充実させ、世界の人々に信頼され、国際社会の一員として責任を果たせるよう、国際性豊かな共生の心を育む。
 - イ 国際コミュニケーションコースにおいては、英語（韓国語、中国語）によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図るとともに、さまざまな分野において国際舞台で活躍できる人材を育成する。
- (4) 地域社会と連携する中で課題を発見し、その解決策を主体的に探究しながら、社会に貢献できる人材の育成
 - ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加など、開かれた学校づくりを積極的に進め地域の課題を発見し、解決策を主体的に探究しながら魅力ある教育活動を展開する。
 - イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。
- (5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実
 - ア 本校の教育目標の達成をめざし、各教職員が学校組織の一員として緊密に連携し、協力しながら、それぞれの課題に取り組む。
 - イ 高大連携、高大接続改革、新学習指導要領など、教育環境の変化に対応し、生徒の夢をかなえる教育の充実を目指し、学校単位をはじめ、個々の教員においても積極的な研修の取組を推進する。

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

- (1) 「本校に入学して良かった」の質問について、9割以上の生徒が「そう思う」「少しそう思う」と答えており、これは教員と生徒の関係性が良いことも大きく影響していると考えられる。BYODの推進により生徒一人に一台の端末を持ち、教員がICTを活用し、わかりやすい授業展開をおこなっている。ほとんどの生徒がiPadを十分に活用できている。授業内容にも興味関心がわき、集中して授業を受けることができている。引き続き、タブレットのグループワークでの活用の充実、授業の理解度を深めるための工夫やICT活用の研究など、さらに効果的な授業改善に努めていく。
- (2) 今年度から文理探究科が新設され、探究活動の充実に取り組んできた。普通科の「総合的な探究の時間」についても、新設の文理探究科とともに、高大連携を軸とした大学教員による指導助言を取入れた探究活動に取り組んでいる。探究活動を通しての成果をまとめ、発表することで、将来の在り方生き方を考えさせ、進路実現のためのキャリア教育の充実にもつなげている。その結果として、昨年同様に7割以上の生徒が本校のキャリア教育プログラムや「総合的な探究の時間」などが進路を考える上で役立ったと肯定的に感じている。全ての生徒のキャリアプランニング能力の育成を充実させるために、より一層の体系的・組織的な探究活動の充実や進路ガイダンスなどのキャリア教育の充実に取り組んでいく。
- (3) グローバル教育については、国際コミュニケーションコースを核として、引き続き「韓国の高校生との直接交流会（本校への訪問）及びアメリカ・台湾・韓国の高校生とのオンライン授業による交流」「夏季休業中の英語集中講座」「短期留学（オーストラリア）」「神戸市外大訪問やJICA訪問」「模擬国連体験」など、各種体験プログラムや行事を充実させている。普通科クラスの生徒を含めて半数以上の生徒が「グローバルな人づくりのためのプログラムが充実している」と考えており、コースの生徒はもとより普通科クラスを含めた全ての生徒が参加して体験できるプログラムを、探究活動と関連させて充実させていくことが課題である。

(4) 今年度は文理探究科の広報活動に重点的に取り組み、オープン・ハイスクールの内容の充実、またホームページのリニューアルや中学生・保護者向けの出前学校説明会の充実を図った。また、令和4年度より、2年生の「総合的な探究の時間」での「北区活性化プロジェクト」における北区地域協働課との連携、鈴蘭台駅でのフラワープロジェクト等の実施、また和太鼓部、吹奏楽部やダンス部などによる各種地域行事の参加や編集部による鈴高新聞による広報など、文化部を中心に多くの生徒が地域貢献活動に組み、ホームページ等で分かりやすく周知することができた。

(5) 「通級指導教室」実践校として5年目を迎えた。学識経験者による教員研修や特別支援教育の視点で配慮が必要な生徒についての研修を実施することで、学校全体で共通理解を図っている。引き続き通級指導の拠点校として、専門機関や協力校と連携し、生徒理解に向けた特別支援教育の研修のさらなる充実を図っていく。

4 学校関係者評価総括

探究活動においては、「北区活性化プロジェクト」における地域との連携や、ふるさと共創事業としての鈴蘭台駅フラワープロジェクトの実施など、地域に根ざした取組が展開されている。また、地域行事に和太鼓部・ダンス部・吹奏楽部が継続的に参加しており、地域貢献の面で高く評価できる。

特に、探究活動において「路線バスを学校まで走らすには」という地域課題を取り上げた点は意義深い。地域では高齢化の進行に伴い、運転免許の返納者が増加し、交通の不便さに関する声が高まっている。過去にバス会社へ相談した経緯があるものの、費用面の課題や運行形態に対する地域住民の意見もあり、実現には至っていない現状がある。

今後も、地域の活性化に向けて、学校と地域が連携しながら継続的に協議を進めていくことが期待される。また、他の分野においても、相互協力による取組の一層の推進が望まれる。

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(1) 『絆』を深め、“夢”や希望を叶え、『在りたい未来』を実現するために必要な「確かな学力」を育成し探究的な学びを充実させることによる、自らの考えを他者との確に共有できる人材の育成</p>	<p>①生徒が学習活動にスムーズに取り組めるよう、校内環境の整備・充実を図る。【総務部】</p> <p>②教員が授業研究に費やす時間や労力を確保できるよう、校務全般を見直す。【総務部】</p> <p>③3～4人での教員グループによる相互授業参観の取組を継続し、お互いに意見交換することで、授業研究を推進する。【教務部】</p> <p>④協働学習や主体的・対話的で深い学びの実践において、ICTを効果的に活用する。【教務部】</p> <p>⑤基本的な生活習慣の定着を図り、スマートフォンを適正に使用するなど情報モラルやメディア・リテラシーを意識させる。【生徒サポート部】</p> <p>⑥通級指導において、個に応じた教育支援を行い、苦手科目を少なくし、得意科目の伸張を図る。【特別支援教育】</p>	<p>①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】</p> <p>②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】</p> <p>③授業研究の参加者数により評価する。(目標：100%)【教務部】</p> <p>④協働学習や主体的・対話的で深い学びの実践および授業におけるICT活用率により評価する。(目標：50%以上)【教務部】</p> <p>⑤生活実態調査などで実態を把握しその変化を検証することで評価する。【生徒サポート部】</p> <p>⑥学習活動の成果(成績、活動内容)、希望進路の実現などから評価する。【特別支援教育】</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>①空調設備やプロジェクターの設置など、教育環境設備は整ってきている。アンケート結果では、生徒は全体の90%超が清掃・美化活動に真面目に取り組んでおり、校内の施設・設備を大切に使用していると答えた生徒も約98%にのぼる。一方、昨今の異常気象による教室の空調設備の適正使用については、保護者から不十分であるとの意見もいただいているため、今後も検討が必要である。</p> <p>②アンケート結果では、教職員の78%が「業務について、部・学年・学校全体でバランスを考えた上で明確化し、組織的に取り組めた」という問いにおいて、肯定的な回答であったが、さらに業務改善を図り、本来の授業研究に費やす時間を確保するよう努める必要がある。</p> <p>③相互授業参観を行うとともに、それぞれの授業や評価方法について話し合った。</p> <p>④ペアワークでの取り組みやICT活用による積極的な意見交換やプレゼンなど、生徒の資質・能力(例えば、共に学ぶ力、人に伝える力)の育成に積極的に取り組んだ。</p> <p>⑤生徒向けアンケートでは、7割の生徒が「生活習慣が身につけている」と回答。ただ保護者向けアンケートでは、身につけているという回答は低い。情報モラル等については、始業式や終業式の機会に注意を喚起。また1年生には入学当初に「スマホに関する講習会」を実施している。</p> <p>⑥個に応じて教育支援が行われていた。苦手科目を克服し、成績が伸びた。コミュニケーションをとることが苦手な生徒は少しずつ克服している。</p>

<p>(2) 自他の生命・尊厳及び自然環境を尊重する精神を持ち、社会の実現に貢献しようとする人材の育成</p>	<p>①防災学習を通して、防災意識を高め、自他の命を守る具体的な行動を考えさせ、訓練などを実施する。【総務部】</p> <p>②生徒の健全な心身の成長を意図した、保健関連の講演会・研修会などを実施する。【生徒サポート部】</p> <p>③学年集会や全校集会における人権教育や「いじめ」に関する講話を通して、命を大切にし、自他を尊重する態度を育成する。【生徒サポート部】</p> <p>④人権教育を通して人間性豊かな人材の育成を図る。【人権教育推進委員会】</p> <p>⑤県庁、県警、看護など各種インターンシップの参加を促進し、キャリア形成に資する体験活動を通じた機会を充実させる。【キャリアガイダンス部】</p>	<p>①避難訓練など防災学習実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】</p> <p>②講演会、研修会実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒サポート部】</p> <p>③「いじめ」に関するアンケート調査を年3回実施し、その内容を検証することにより評価する。【生徒サポート部】</p> <p>④人権HR（講演会）後の生徒感想文（作文）の内容により評価する。【人権教育推進委員会】</p> <p>⑤インターンシップの参加状況や生徒感想文などにより評価する。【キャリアガイダンス部】</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①アンケート結果では、生徒の防災に関する意識は高まっている（肯定的意見 R6年度 67%→R7年度 79%）。防災だけではなく、不審者対策等についても具体的な行動を考えさせる機会を設けていきたい。</p> <p>②7月15日3・4限、2学年生徒を対象に、「NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ」から講師を招き、「デートDV防止授業」というテーマで講演会を実施した。事後アンケートでは、98%の受講者が「ためになった」と回答しており、感想文においてもそれぞれの学びとともに、今後に生かそうとする姿勢がうかがえた。</p> <p>③「いじめ」に関するアンケートを実施。いじめに該当する項目にマークした生徒については、学年・担任による事実確認を行い、解決に向けてケース会議を行うなどの対応をとっている。</p> <p>④10月8日、NPO法人ゲートキーパー支援センターの方から「自分を大切にすること」というタイトルで講演会を実施。感想を書かせることにより、生徒の意識の変化を確かめるものとなり、有意義なものになった。</p> <p>⑤看護体験・医療系体験（薬剤師体験を含む）に10名（看護系希望者17名中9名、薬剤師希望者3名中1名）が参加した。体験に参加したすべての生徒が満足を感じ、看護系の学校に進学することを希望している。 学んだこととして、医療の知識、患者とのコミュニケーションの重要さだけでなく、「看護師同士の情報」の共有や、「互いに患者様の状態を共有し」していること、「色々な職種の人と関わり」のうえで成り立っていることなど、チーム医療の重要性に気がついたと半数の生徒が感想に残している。また、患者との会話の際に「異常がないかを同時に見て」いる看護師の姿を目の当たりにしたり、「看護師さんの1日の流れ」の実感を得たりして、職業に対する理解が深まった体験であったと思われる。 病院の倍率が高く抽選に漏れた者がでた点は残念であるが、自宅近くの体験先にこだわらず、複数の病院で体験することも視野に入れて申し込む必要などを、ガイダンスを通じて訴えて、希望者全員が体験できることを目指したい。 福祉体験学習（ワークキャンプ）は、希望により応募し、保育園・こども園・児童館で実施された。7名応募、6名参加（内1名は試合の為キャンセル、1名は1期と3期の2施設に参加、延べ7名）した。</p>
---	---	--	---	--

⑥卒業後の希望の進路に向けて、家庭での学習時間を確保し、学習時間の確立を図る。
【キャリアガイダンス部】

⑥学校評価アンケートなどにより評価する。
【キャリアガイダンス部】

以下、生徒の感想を幾つか挙げる。「今回の経験で、以前よりも保育士の仕事に興味を持つことが出来ました。仕事の内容は昼間の子供たちの世話だけではなくて、今後のイベントの計画やその時に使う物品作りなどやらなくてはならないことがたくさんあって、楽な仕事じゃないと思いました。」「園児がいる時間はどこで何が起きているのか分からないので、周りをしっかりと見て行動しなきゃいけないと思いました。毎日通うのがとても楽しくて、やりがいがたくさん感じる事が出来ました。」「0才・1才の子供から5才・6才の子供になるにつれて、言葉の発達を間近で感じる事が出来ました。さらに視野をもっと広げて、一人一人の子供たちの様子を見る事が重要だと学ぶことが出来ました。」

このように、どの施設で体験した生徒も園児がいる時間の保育士の仕事と園児が帰ってからの裏方としての仕事の大変さを身に染みて感じたようであるが、一方で、子供の笑顔がくれる「元気」を受け取っている。

B ⑥4月と9月の進路希望調査により学習時間を調査した。
3年生については、4月から9月の調査にかけて大きな変化が見られた。1日の学習時間について、4月時点で1時間未満と答えた生徒は全体の37.5%もいたのに対して9月の調査では半数以下の14.7%に減少。また、4月で3時間以上と答えた生徒は全体の11.7%であったが、9月では44.5%に増加、特に全生徒の約半数は1日に3時間を超えて学習時間を確保している。進路指導の深まりや生徒個人の進路意識の成熟、部活動の引退等による1日の生活時間の変化も考えられる。4月時点では進路希望が明確でない生徒も一定数見られ、学習時間にばらつきがあったとも考えられる。9月の調査では、夏期休暇中の三者面談を通して、進路希望が具体化するにつれ、学習時間を確保する生徒が増加してきたことがうかがえる。
気がかりなのは、4月の調査で1時間から3時間未満と答えた生徒は全体の50.8%だったが、9月の調査ではほぼ横ばいの40.8%になっている。課題として、この層の引き上げがあげられる。学習時間が4月から9月にかけて1時間から3時間程度にとどまっている生徒に対して、いかにモチベーションをあげさせ学習意識を高めていくか、注視しながらアプローチを考えていく必要がある。

3年 第1回4月実施、第2回9月実施

学習時間	4月(%)		9月(%)
・30分未満	17.6	→	9.4
・30分～1時間未満	19.9	→	5.3
・1時間～1.5時間未満	18.4	→	8.2
・1.5時間～2時間未満	13.3	→	11.4

・2時間～2.5時間未満	10.5	→	9.8
・2.5時間～3時間未満	8.6	→	11.4
・3時間～4時間未満	5.1	→	19.2
・4時間～5時間未満	4.3	→	12.2
・5時間以上	2.3	→	13.1

2年生

学習時間	4月(%)		9月(%)
・30分未満	42.1	→	32.5
・30分～1時間未満	33.7	→	30.6
・1時間～1.5時間未満	11.7	→	19.2
・1.5時間～2時間未満	7.7	→	12.5
・2時間～2.5時間未満	2.2	→	2.6
・2.5時間～3時間未満	1.8	→	1.1
・3時間～4時間未満	0.7	→	1.1
・4時間～5時間未満	0	→	0
・5時間以上	0	→	0.4

1年生

学習時間	4月(%)		9月(%)
・30分未満	14.4	→	32.7
・30分～1時間未満	30.6	→	32.3
・1時間～1.5時間未満	25.7	→	22.4
・1.5時間～2時間未満	18.0	→	7.8
・2時間～2.5時間未満	6.0	→	2
・2.5時間～3時間未満	3.5	→	2
・3時間～4時間未満	1.4	→	0.3
・4時間～5時間未満	0	→	0
・5時間以上	0	→	0

学校評価アンケートでは、1年生の39.4%、2年生37.3%、3年生66.5%が家庭における学習習慣（予習・復習など）が身に付いていると回答した。定期考査や課題考査では、1年49.8%、2年50.4%、3年62.3%が学習計画を立てて取り組んでいると回答し、全体の約半数が定期考査などの直前であっても計画的に学習に取り組めていないことが分かる。1年の53.8%、2年65.8%、3年88.6%が自分の進路について計画的に情報を集めていると回答。進路について関心がある一方で、必ずしも日常的な学習には結びついていない可能性がある。

12月に2年生対象の大学模擬講義を行った。9月実施の進路希望調査によると、卒業後の進路希望先として87.9%四年制大学、6.8%専門学校、2.3%公務員就職、0.8%短大、その他（医学部や薬学部など六年制大学）1.9%となっている。このように、本校は四年制大学への進路希望者が多い。事前にアンケートを実施し、1人につき2回の講義を受けられるように設定した。今回は、京都大学、京都外国語大学、兵庫医

			<p>科大学、甲南大学、関西学院大学、大阪工業大学をはじめとする 11 校の四年制大学に加え、6 校の専門学校等により 23 の講座を開講した。大学教員による授業を体験することにより、「学問の面白さ」「学ぶことの意義」について考えさせ、専門学校希望者には、「職業に関する理解」「各分野での学び」について情報提供し、進路意識を向上させる機会として、大学の授業を体験する行事を開催した。以下に生徒の感想を一部抜粋して紹介する。196 名中、192 名が今後の進路に活かそうだと回答している。</p> <ul style="list-style-type: none">・いちから日本の河川の特徴を教えてくださいその後からの話を理解しやすく噛み砕いて話していて理解しやすい内容だった。受けてみてこの分野に興味を湧いた。・工学は建物だけではなく、川や海などの自然に関することがあることが分かった。・一見、受験や大学の専攻には関係ないように思われる科目でも疎かにできないなと実感できた。・何のために勉強するのかという問いに現代ではネットで調べればわかるのではという意見に対して、その情報が存在する可能性や意味に気づくために勉強するのだとおっしゃっていたのが印象的だった。・語学を学ぶことの奥深さと必要性を感じた。授業は、単語や文法を覚えるだけでなく、その言語が使われている国の文化や価値観、考え方まで学ぶことが重要だという内容だった。・実際の会話例や異文化でのコミュニケーションの注意点をすることで、外国語は「教科」ではなく「人とつながるための道具」だと実感した。・外国語を学ぶ上では、自分の意見を外国語で伝えようとする姿勢が大切で、自分も将来このような環境で学びたいと思った。この授業を受けて、外国語を学ぶ意欲が高まり、進路についても真剣に考えていこうと思うきっかけとなった。 <p>・医者や看護師の声のかけ方一つで患者さんの安心感が大きく変わるという話が印象に残った。今回の体験を通して、医療の仕事には高い専門性と同時に、人を思いやる気持ちが欠かせないことを知り、将来は医療の現場で人の役に立ちたいという気持ちがより強くなった。</p> <ul style="list-style-type: none">・身近な焼き肉店の経営に多くの工夫があることを知り驚いた。立地や価格設定、メニュー構成、ターゲットとする客層などによって、同じ焼き肉店でも売り上げや集客が大きく変わることを知った。・家族連れ向けのサービスや SNS を活用した情報発信など、時代に合わせた戦略が重要であると感じた。経営学部では経営の視点で考えることで、マーケティングの面白さを知ることができた。
--	--	--	---

				<ul style="list-style-type: none"> ・大学で行われている「ゼミ」とはどのようなものか興味を持った。オープンキャンパスなどにも参加してもっと調べてみたい。 ・大学で学ぶ内容は高校とは違い、社会的に自由でとても興味を持った。得た情報の正確性を調べたり、自己が感じた矛盾を確実に消していくことが重要であると思った。これからオープンキャンパスなど「実際」を見る機会を大切にしたい。 <p>今後の進路実現に向けての前向きな感想が目立った。今回の講義を通して、生徒の進路意識をよりはっきりと認識させ、進路決定への学習意欲向上になればよいと考える。今後も生徒の進路希望調査の結果を反映させながら、ニーズに合わせた学部や学科を精選し、より充実した大学模擬講義の企画運営を行っていきたい。</p>
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3) 伝統文化を尊重しつつ、多文化共生社会の実現に向けて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った国際社会で活躍する人材の育成	<p>①オープン・ハイスクールや学校訪問、学校説明会をはじめとした各種行事に積極的に協力をし、広報活動を行う。【総務部】</p> <p>②学校行事(文化祭や修学旅行等)を通して、異文化に関心をもち、広い視野をもって考えるグローバル人材を育成する。【生徒サポート部】</p> <p>③国際コミュニケーションコースの生徒を対象とする「グローバル・プログラム」(英語集中講座、海外高校生とのオンライン交流、留学生との交流など)を実施する。【探究推進部】</p> <p>④国際コミュニケーションコースの生徒を中心に、世界規模の課題や世界各国の課題解決に着目した探究活動を推進する。 【探究推進部】</p> <p>⑤全生徒を対象とする「インターナショナル・プログラム」として、短期海外研修や、中期留学・奨学金の情報提供を推進する。 【探究推進部】</p>	<p>①各種行事実施後の参加者アンケートや、文理探究科志願者数などにより評価する。【総務部】</p> <p>②学校行事(文化祭や修学旅行等)の事後指導における生徒の感想により評価する。【生徒サポート部】</p> <p>③生徒のアンケート、英語外部検定の結果及び取得状況、講座内での取組を通じて評価する。 【探究推進部・国際交流事業委員会】</p> <p>④探究成果発表会の内容、生徒の振り返りなどにより評価する。【探究推進部】</p> <p>⑤各種説明会・研修・留学への参加者数、参加者へのアンケートにより評価する。 【探究推進部・国際交流事業委員会】</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>①オープン・ハイスクールや文理探究科授業体験は概ね高評価であった。中学校訪問は各部学年の先生方で手分けし、今年度は神戸・三木・三田市の72校に訪問した。中学校から依頼のある進路説明会への参加も増加している。(今年度10校)学校外での説明会は、本校主催で9月に4か所、4月と9月には塾主催の進路説明会にもブースを出した。校外説明会のより適切な時期や場所について検討していく。</p> <p>②異文化体験として海外修学旅行を実施。修学旅行終了後、当該学年がアンケート調査を実施し、次年度以降の修学旅行に役立てている。</p> <p>③いずれのプログラムにおいても、内容への興味深さや満足度などの項目で肯定的に回答していた生徒が90%以上であった。国際的な視野を持って学びに取り組んでいる様子が伺えた。ただし、オンライン交流の機会が減少しており、プログラムの充実と持続可能性を高めていく必要がある。</p> <p>④外国人や外国文化を対象にした探究活動に取り組む生徒が、相対的に普通科よりも多く見られた。内容の深化や各種国際交流事業との関連性の強化が課題である。</p> <p>⑤6年ぶりに短期海外研修を実施し、普通科・文理探究科・国際コミュニケーションコースの生徒15名(1年6名・2年9名)が参加した。短期海外研修アンケートから、プログラムへの満足度は100%で、全員が英語学習への意欲を向上させたり、進路への意識を高めたりしたことが伺えた。また、中期留学説明会参加者5名、トビタテ!留学JAPAN</p>

				申請2名など、校内SNSを活用した情報提供への反応が一定程度見られた。実際に行動を起こす生徒は文理探究科生の比率が高いが、普通科の生徒からも関心を持つ声が聞かれており、引き続き情報提供を進めたい。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 地域社会と連携する中で、課題を発見し、その解決策を主体的に探究しながら、社会に貢献できる人材の育成	①学校ホームページなどを活用して生徒の様々な活動を校内外に積極的に発信することで、生徒自身に活躍する喜びや応援し支えられている意識を持たせ、地域・家庭との連携につなげる。 【総務部】	①ホームページ閲覧数の変化及び学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①約85%の教職員は、学年通信等を定期的に発行し、情報発信することができたと回答している。ホームページ等の更新と情報発信についても、肯定的意見は約88%に上る。一方、学校ホームページを利用し情報を得ていると回答した生徒は約37%、ホームページを見たことがないと回答した生徒は19.5%いた。保護者は学校の情報提供に関する設問では約70%の保護者が肯定的意見であったが、学年通信やホームページを見たことがないと答えた保護者も存在している。地域や家庭とのさらなる連携を図るためには、今年9月から運用開始した「すぐる」の活用も含め、より効果的な情報発信を考えていく必要がある。
	②「総合的な探究の時間」や課外活動などを通して、地域の課題を発見し、解決策を主体的に探究しながら、地域社会に貢献する人づくりを進める。 【探究推進部】	②学校評価アンケートや探究成果発表会の内容、生徒の振り返りなどにより評価する。【探究推進部】	A	②学校評価アンケートの質問項目「地域での活動に積極的に参加している」に対し、「そう思う/少し思う」と回答する生徒の割合が、令和6年度36.2%→令和7年度49.9%と増加した。神戸市北区地域協働課と連携した探究活動や、生徒自身が興味・関心のある課題を見つけ、自らアポイントメントを取ってインタビューに取り組む活動など、昨年度よりも積極的に地域と関わる探究活動に取り組む様子が見られた。
	③社会人講話を実施し、実社会で期待されている人材（人財）の要件を生徒、職員が共有する。 【キャリアガイダンス部】	③学校評価アンケートなどにより評価する。 【キャリアガイダンス部】	A	③「社会人講話」と銘打った講話の実施はなかったが、3年生対象の面接対策講座（2回実施）や、2年生対象の大学模擬講義の基調講演の中で、講師の先生方に実社会で求められる人材の要件や進路を実現するための心構えについて学ぶ機会があった。3月に演劇業界の講師による2年生対象の講話とワークショップを開催予定。
(5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実	①担当業務を明確化し、組織的に取り組むことで業務の効率化を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	A	①アンケートでは、教職員の78%が「業務について、部・学年・学校全体でバランスを考えた上で明確化し、組織的に取り組めた」という問いにおいて肯定的な回答であった。今後も業務のスリム化に努める。
	②生徒に対して、育成する力を明確にして行事運営の見直しを図る。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	A	②アンケートでは、90%超の教職員が「生徒のどのような力を育成するのかの視点を持って行事運営を行えた」に「そう思う」「少し思う」と回答している。また、約90%の生徒が「文化祭や体育祭など行事全般に積極的に参加・協力している」と回答している。生徒自ら考え行動できる機会をさらに作っていきたい。

	<p>③先進取組校への教員派遣を実施し、職員研修会で報告機会を設け全職員への還元を図る。 【探究推進部】</p> <p>④生徒会・部活動・学年などと連携しながら学校行事や地域活動などに自主的／自律的に取り組む生徒を育成する。【生徒サポート部】</p> <p>⑤「進路サポート」（キャリアノート）やキャリアパスポートを積極的に活用した体系的・系統的なキャリア教育を推進する。 【キャリアガイダンス部】</p>	<p>③職員研修実施回数により評価する。（目標：年1回以上） 【探究推進部】</p> <p>④各行事の事後アンケートや学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒サポート部】</p> <p>⑤学校評価アンケートなどにより評価する。 【キャリアガイダンス部】</p>	<p>A ③今年度は探究推進部の関連業務「DX加速化推進事業」予算により、「総合的な探究の時間」の先進取組校（東京私立高校2校）へ教員を派遣した。先進取組校では、「総合的な探究の時間」の目標や活動が「育成をめざす生徒の資質・能力」を踏まえて設定されること、この点に関する教員同士の対話が非常に重視されていることなどの知見を得ることができた。 この知見を踏まえ、12月に全教員で「育成をめざす生徒の資質・能力」をテーマにする教員間の対話の場（Kobe-Suzurandai Education Lounge）を開催した。限られた時間ではあったが、お互いの教育観の共通点や差異に気づき、それを擦り合わせる良い機会となった。</p> <p>B ④学校評価アンケートでは部活動や学校行事に自主的に参加・活動していると約8割の生徒が回答している。今後はその自主性を学習面につなげていけるようにする必要があると考える。</p> <p>A ⑤学校評価アンケートでは、本校のキャリア教育プログラム（1年:分野別進路ガイダンス、講演会、2年:マイビ進学ライブ、大学模擬講義、3年:進路別ガイダンスなど）については、自分の進路を考えるうえで役立っていると回答したのは、1年85.2%、2年82.9%、3年78%（昨年度全体で64.1%）で、昨年度よりもより一層進路のプログラムとして充実させることができたと思われる。1年生のガイダンスについては3月から7月に早期化したこと、2年生は7月に新たにガイダンスに参加したことも回答結果に影響したと思われるが、3年間を見据えたキャリア教育に関する年間計画の下、組織的・継続的にキャリア教育を実施することができた。教員はキャリアパスポートを生徒理解の一助として活用した。生徒は自己分析を深め、働くことの意義や多様な職業、自らの興味や資質に応じた多様な進路の可能性について、進路ガイダンスやインターンシップごとの振り返りや目標設定を行い、キャリアノート（ポートフォリオ）を蓄積・形成し、系統立てて理解を深めた。</p>
--	---	--	---